

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名:ビャクシン類のナシ赤星病に対する感受性検定			
[要約]都市近郊ナシ生産地帯では、宅地造成にともなうビャクシン植栽とナシ赤星病との関係が問題となっている。そこで近年導入されたビャクシン類61品種に対し赤星病感受性検定を行ったところ、半数にあたる34品種はナシ赤星病菌の中間宿主とならず、ナシ園近接地で植栽可能である。			
キーワード(専門区分) 作物病害 (研究対象)花木類-緑化樹 (フリーキーワード)ビャクシン、赤星病、感受性、ナシ、緑化、中間宿主			
実施機関名(主査)農業試験場 花植木研究室 (協力機関)農業試験場 病理研究室 (実施期間)1996年度~2000年度			

[目的及び背景]

ガーデニングブームを背景に、ビャクシンの新品種導入が急増し植栽も増えている。しかし、都市近郊のナシ生産地帯では、住宅に植栽されたビャクシンとナシ赤星病との関係が問題化している。そこで、近年導入されたビャクシン類の赤星病に対する感受性を検定する。

[成果内容]

1. 赤星病多発無防除ナシ樹下に植栽したビャクシン属10種61品種(樹高20~50cm)を供試し、複数のナシの葉から採取した約10⁴個/ミリリットルの孢子懸濁液を毎年6月上中旬に1株当たり100ミリリットル噴霧接種した。
2. 接種翌年の4月上中旬に前年枝20cmに寄生した赤星病冬孢子堆の数を調査し、3ないし5年間全く罹病しなかった34品種をグループA、極僅かに罹病した9品種をグループB、罹病した17品種をグループCと3段階に分類した。
3. アメリカハイビャクシン8品種、セイヨウネズ9品種、ハイネズ2品種、サビナビャクシン3品種は供試した全品種とも罹病しなかったが、他種は品種によって感受性が異なった。
4. グループAはナシ園等の近隣植栽が可能であるが、B、Cは避ける。

[留意事項]

赤星病の発生量は、気象条件による年次変動が見られる。

[普及対象地域]

県下ナシ生産地帯

[行政上の措置]

[普及状況]

種 類	品 種	指数	種 類	品 種	指数	
グループA			グループB			
<i>J. chinensis</i>	ヒバクシン・クリワコ [○] ・ルト [○]	0	<i>J. procumbens</i>	ハイバクシン・ナナ	0.1	
<i>J. pfitzeriana</i>	フィツェリアナヒバクシン・フル [○] ・コ [○] ・ルト [○]	0	<i>J. chinensis</i>	ヒバクシン・ロフスタク [○] ・リ [○] ン	0.7	
	サルファスフレイ	0		オーレア	0.7	
<i>J. horizontalis</i>	アメリカハイバクシン・マサ [○] ・ロウテ [○]	0	ク [○] ・ホ [○] ・ウサ	0.7		
	ヒュース	0	<i>J. pfitzeriana</i>	フィツェリアナヒバクシン・フル [○] ・モ [○] ・サ [○] ・オーレア	0.3	
	シ [○] ・エイト [○] ・リ [○] ・ハ [○] ・	0	<i>J. scopulorum</i>	コロラト [○] ・ヒバクシン・メト [○] ・ラ	0.2	
	タ [○] ・ク [○] ・ラ [○] ・シ [○] ・	0		フル [○] ・エンシ [○] ・ェル	0.2	
	ウイルト [○] ・ニ [○] ・	0	<i>J. squamata</i>	ニイタカヒバクシン・フル [○] ・カ [○] ・ヘ [○] ・ット	0.2	
	フル [○] ・チ [○] ・ッ [○] ・	0		ホルカ [○] ・	0.3	
		フ [○] ・リン [○] ・ス [○] ・オ [○] ・フ [○] ・ウ [○] ・エ [○] ・ル [○] ・ス [○] ・	0	グループC		
	ヤ [○] ・ク [○] ・ス [○] ・タ [○] ・ウ [○] ・	0	<i>J. procumbens</i>	ハイバクシン	1.2	
<i>J. scopulorum</i>	コロラト [○] ・ヒバクシン・ム [○] ・ン [○] ・ク [○] ・ロ [○] ウ	0	<i>J. chinensis</i>	ヒバクシン・ハ [○] ・リ [○] ・エ [○] ・カ [○] ・	2.0	
	ウ [○] ・イン [○] ・タ [○] ・フ [○] ・ル [○] ・	0		ヒ [○] ・ラ [○] ・ミ [○] ・タ [○] ・リ [○] ・ス	2.5	
	ク [○] ・レ [○] ・イ [○] ・ク [○] ・レ [○] ・イ [○] ・ム	0		カ [○] ・イ [○] ・ス [○] ・カ	2.7	
	フル [○] ・ク [○] ・リ [○] ・ハ [○] ・	0		オ [○] ・ヘ [○] ・リ [○] ・ス [○] ・カ	2.3	
<i>J. virginiana</i>	エン [○] ・ビ [○] ・ツ [○] ・ヒバクシン・ハ [○] ・	0		ウ [○] ・イン [○] ・タ [○] ・カ [○] ・リ [○] ・ン	1.2	
	ヒル [○] ・ス [○] ・フル [○] ・	0	<i>J. pfitzeriana</i>	フィツェリアナヒバクシン・タン [○] ・テ [○] ・ラ [○] ・イ [○] ・	1.3	
	マン [○] ・ハ [○] ・ッ [○] ・タ [○] ・ン [○] ・フル [○] ・	0		セイ [○] ・フ [○] ・ロ [○] ・ク [○] ・コ [○] ・	2.0	
<i>J. communis</i>	セイ [○] ・ヨ [○] ・ウ [○] ・ネ [○] ・ス [○] ・	0		フィツェリアナク [○] ・ラ [○] ・ウ [○] ・カ	1.9	
	セン [○] ・チ [○] ・ネ [○] ・ル	0		フィツェリアナオーレア	2.3	
	ス [○] ・エ [○] ・シ [○] ・カ	0		コ [○] ・	1.5	
	レ [○] ・ハ [○] ・ン [○] ・タ [○] ・	0		ミ [○] ・ン [○] ・ト [○] ・	1.0	
	ク [○] ・リ [○] ・ン [○] ・カ [○] ・ヘ [○] ・ット	0		コ [○] ・	1.7	
	コ [○] ・	0		オ [○] ・	2.1	
	コ [○] ・	0	<i>J. scopulorum</i>	コロラト [○] ・ヒバクシン・フル [○] ・ヘ [○] ・フ [○] ・ン	2.5	
	コ [○] ・	0			スカ [○] ・イ [○] ・ロ [○] ・ケ [○] ・ット	1.0
	コ [○] ・	0		<i>J. virginiana</i>	エン [○] ・ビ [○] ・ツ [○] ・ヒバクシン・ク [○] ・レ [○] ・イ [○] ・ウ [○] ・ル	1.7
		コ [○] ・				
	<i>J. conferta</i>	ハイ [○] ・ネ [○] ・ス [○] ・	0			
フル [○] ・ハ [○] ・		0				
オ [○] ・ウ [○] ・レ [○] ・オ [○] ・ハ [○] ・		0				
<i>J. squamata</i>	ニ [○] ・イ [○] ・タ [○] ・カ [○] ・ヒバクシン・チ [○] ・ヤ [○] ・イ [○] ・ニ [○] ・ス [○] ・	0				
	フル [○] ・	0				
<i>J. sabina</i>	サ [○] ・	0				
	タ [○] ・	0				
	ロ [○] ・	0				

指数は、前年校枝先20cmに冬孢子堆数が0：無、1：1～9個、2：10～99個、3：100個以上着生（3～5年間の平均値）

[発表及び関連文献] 平成14年4月3～4日、日本園芸学会で発表